

明石市公設卸売市場の設計

一明石の食文化をつなぐ流通と交流の拠点の設計—
明石工業高等専門学校 猪野 将

目的

明石の食文化に対して明石市民や消費者が地域特有の財産であることを共有し、多くの人が食を通して関わることのできる卸売市場を計画することを目的とする。

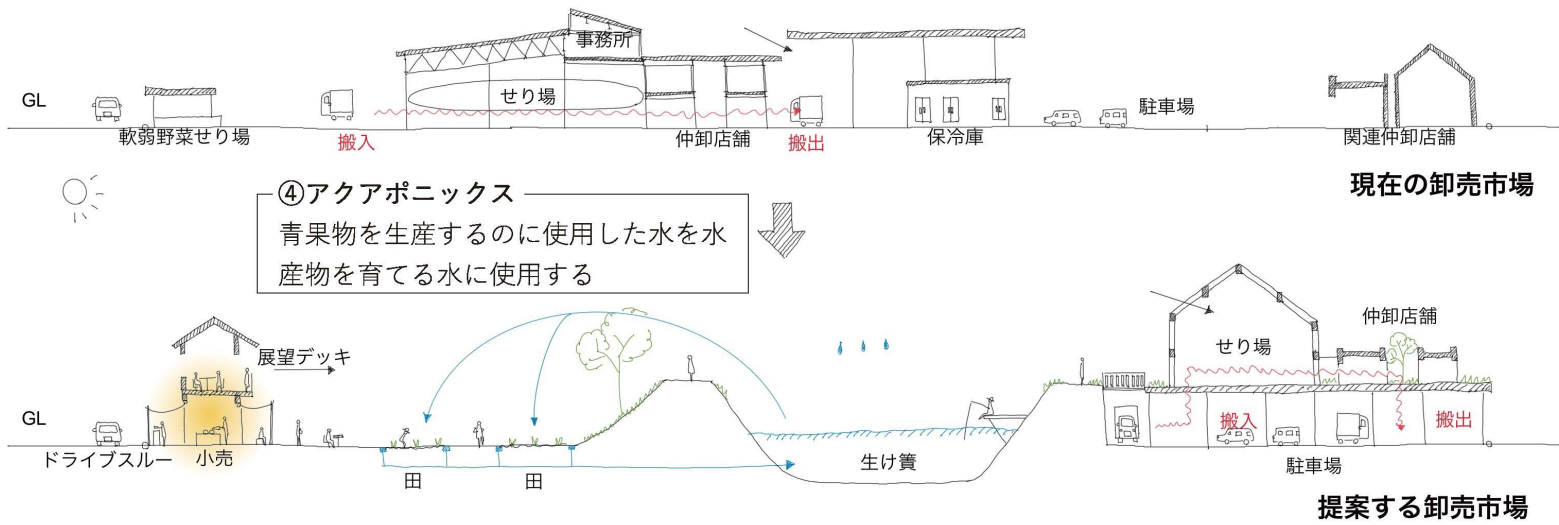
取組内容

明石市で行われている水産業に対する取り組みを調査し、水産業が抱える課題を明らかにする。明石市公設卸売市場の使われ方調査や実測、市場祭りへの参加によって調査を行い、現在の明石市公設卸売市場役割を明らかにする。それらの調査結果をもとに卸売市場の課題について考察し、卸売市場の可能性について検討し計画を行う。

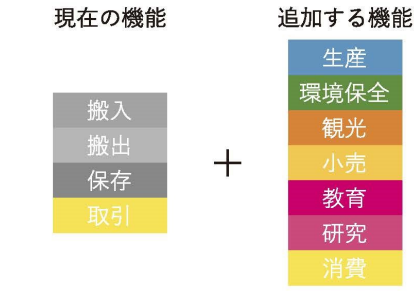
結果（提案内容）

現在の卸売市場の問題点

- 敷地全体がフェンスで囲まれている
- 使用されていないスペースが多い（駐車場、セリ場、仲卸店舗等）
- 築 50 年となり改修する必要がある
- 人件費の問題から開催が中止されているセリがある

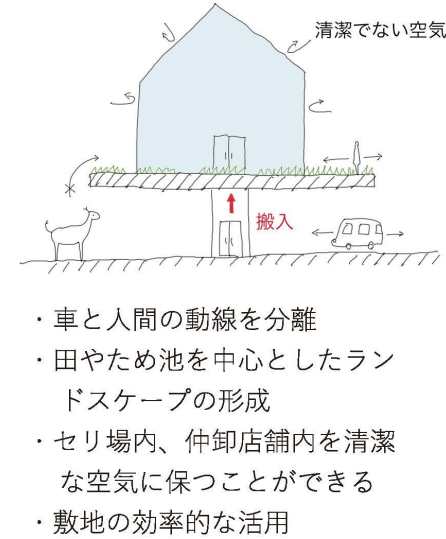


①機能の追加



従来の卸売市場では卸売りと流通が主な機能であったが、生産活動や環境保全活動等の機能を追加することで明石市の食について学び触れる機会ができる。

②セリ場の空間改善

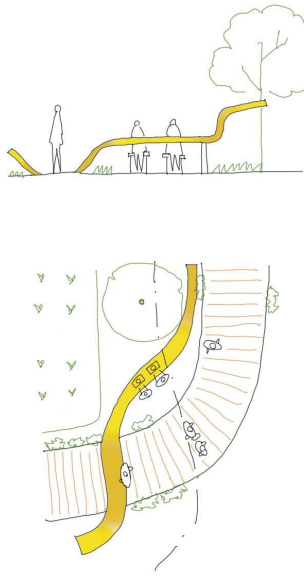


③ドライブスルー

幹線道路の近くという立地の良さを生かし、ドライブスルーで仲卸店舗や小売店舗の商品を購入できるようになっている。

⑤道

公園や道路の延長のような空間になるように、食事のできる歩道を敷地の内と外をつなぎながら配置している。



調査内容



図 1：兵庫県内の卸売市場の位置関係

(1) 立地的特徴

兵庫県には姫路中央卸売市場、明石市公設卸売市場、神戸中央卸売市場の計 3 つの公設卸売市場がある。明石市公設卸売市場は二つの中央卸売市場に挟まれた規模が比較的小さい地方卸売市場である（図 1）。規模が小さいため、仲卸業者数が少なく競争が少ないため、セリを行うと中央卸売市場よりも高値が付きにくいという特性がある。

(2) 水産業の課題

明石市には水産物を主とした豊かな食材と魚の棚というそれら水産物の商業拠点があるが、漁獲量の減少（図 2）が起きている。市民の地魚の消費量も減少しており、明石市の漁業は衰退の道をたどる一方である。

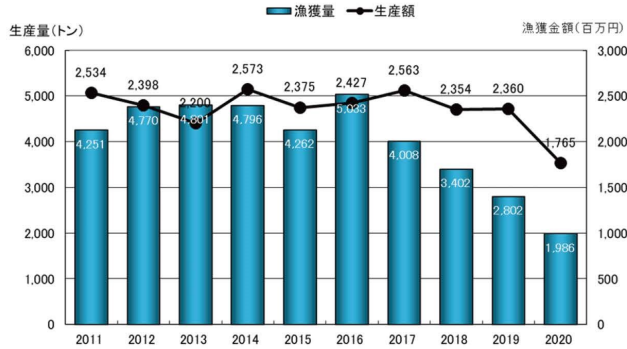


図 2：明石市の漁業生産量・生産額（ノリ養殖漁業を除く）の推移
[引用：明石市公設卸売市場・(2023) 市場概要・参照先：efaidnbmnnnibpcajpcgiclfindmkaj]